

第2回やまたん公開座談会 in 村山 議事録

1 開会挨拶および「動ける・話せる」学生の実践的育成について

(総合文化学科学科長熊谷義隆) 本日のメインは14:00からの分科会。さまざまな意見を聞かせていただきたい。

本来は学長から御礼を申し上げるところだったが、学長に代わって学科長があいさつを申し上げる。

「動ける・話せる実践的育成」は、総合文化学科が出来てから、学生と地域のニーズにこたえていくのが役割である。高校生諸君にもアンケートをとったが、資格の他に「コミュニケーション能力」を養ってもらいたい、ということが出てきた。

そこで、大川先生が長年かかわっていた西川町とのつながりで、今回の取り組みを企画してきた。本取組には3つの柱がある。

- 授業
- プレゼン山形
- やまたん公開座談会

この3つを柱にしながら、地域の皆様の力をお借りしながら学生を育てていきたい。学生教員ともどもとても忙しくなるが、企業の皆様からは、いろいろアドバイスを頂戴し、実施に向けていきたい。

学生諸君も、分科会に入ることになるが、評価される場ではないので率直な意見を言ってもらいたい。

企業・学生・教員が三位一体となって本プロジェクトを進めていきたい。

2 これまでの活動実績および今後について

(教育GP責任者伊藤弘昭) 配布資料を参照(これまでの活動実績および今後について(平成21年度))、3つの柱を具体的に話す。

2.1 必修フィールドワーク

学生は1年時に、必修の授業で地域との交流、地域との直接的なかわりを設けている。

- 1年前期：地域体験(6月)
- 1年後期：基礎演習II B

ただ単に体験するのではなく、4系列ごとにテーマを設け、取材、インタビュー、見学などのフィールドワークを11月に行う。そしてそれをまとめたものを山短にてプレゼンテーションを行う。フィールドワークに関しては、「アクション」カテゴリの中にも必修以外の課目(選択必修)として用意されている。

2.2 プレゼン山形

課外活動にて、学生は企業や団体へ取材に向かい、取材先の方々と一緒になって参加していくなかで、実践的な力を身につけていく取組。

2.2.1 やっぺ山形隊

日常的な意味における体験学習の場。学生はチームを組んで取り組む、現在は2つのパターンに分かれており、「地域イベント・ボランティア参加チーム」と、「地域企業・団体訪問チーム」に分かれる。

2.2.2 プレゼン山形（大学祭内イベント）

大学祭（今年度は10月11日と12日）にて、今年度はやっぺ山形隊の活動報告をパネル展示で行う「プレゼンテーション部門」で形を作っていこうと考えている。もう1つの「イベント部門」については、来年度本格実施予定。

2.3 やまたん公開座談会

今年度は3回予定している。

- in 村山（本日9月18日）
- in 置賜（2月実施予定）
- in 西川町（3月実施予定）

3 総括討議

3.1 分科会報告

3.1.1 第1分科会（非営利組織・ボランティア活動における短大の役割）

ボランティア参加学生から課題をあげてもらった。大きく絞ると「物理的な距離が大きい」「メンタリティ（1人では参加しにくい）」「情報（どこにどんなボランティアがあるか）」。

改善点としては、これらのボランティアに参加する学生と組織との仲介組織（ボランティアセンター）があると良いという提案が出た。この組織を短大の中に設ける。

どういう条件なら学生がボランティアに参加できるかを、組織側に仲介役が伝えていく。またボランティアに参加した学生が、他の人に伝えていいく「場」も仲介役が作る。

短大が持っている先輩後輩間の連携も、仲介組織が吸収して、後輩に伝えていく、親しみやすいセンターを作っていくとよい。

3.1.2 第2分科会（企業と短大の連携へ向けて）

情報をさまざまな方法で的確に、企業側から、あるいは大学側から、あるいは若者から、双方のニーズをつなげる方法を探らなければならない。

まだまだ学生側の認識から見れば、企業に対してまだまだ「溝がある」という認識を持っている。

企業側から言うと、インターンシップのような形で、中期で企業と係わることで、山形県内の企業の現況を学生に知らせたほうが良い。

山形市は果たして魅力ある街なのか、そして、はたして発展しすぎることが良いのか、という意見も学生の一部からあがった。

3.1.3 第3分科会（地域イベント・メディアと短大の連携へ向けて）

短大生がイベントに参加するにあたり、いくつかの項目にまとめた。

- 「テーマ設定」…イベントやボランティアの目的を、物語やストーリーが分かりやすくはっきりしていると、参加しやすい。
- 「参加のしくみとモチベーション」…単位化と絡めてくれると魅力が大きい。
- 「場所の設定」…短大内や山形駅を起点として、交通手段の確保が、参加する側として必要である。
- 「事前準備」…イベントの趣旨を主催者側から学生に理解してもらおう。事前学習を充実してほしい。
- 「役割分担」…自分たちが何をするのか明確に。あと学校側の支援体制を充実してほしい。企画段階から学生が主体になりたい。
- 「事後の仕掛け」…感謝の言葉を述べた手紙を出す。反省会、事後の交流会も。
- 「メディアへの効果的な発信」…参加を促す仕組みとして、ニュースリリース、情報を潤沢に持つ行政と係わる

など。

3.2 総括

学科長より。

議論の中で「仲介役」「企業との懸け橋」などといったキーワードが出てきたように、本学が学生自身にとって主体的になっていくことを仲介役となって支援しなければならない。

短大としての活動を、情報発信すると同時に、短大内部に情報を蓄積し、後輩につなげれいくことを考えていかなければならない。